

名古屋丸の内ロータリークラブ Nagoya Marunouchi Rotary Club Weekly Report

例会会場：名古屋クレストンホテル
(TEL : 052-264-8000)

例会曜日：木曜日 12時30分
クラブ会報広報委員長：黒田 覇太郎
HP : <http://nagoya-marunouchi-rc.org/>

2023-24年度 R.I. テーマ
会長：ゴードン R. マッキナリー

Rotary
Club of Nagoya Marunouchi



世界に希望を生み出そう

承認
会長
幹事
事務局

1995.03.28
松尾 雄二郎
今村 昌根
名古屋クレストンホテル
1007号
名古屋市中区栄 3-29-1

TEL 052-263-1324
FAX 052-263-0730
E-mail seinan1@fancy.ocn.ne.jp

松尾 雄二郎 会長 年度目標 : 親睦、親睦、そして親睦、楽しんで 30周年につなげましょう

第1237回 例会 No. 13 令和5年 11月9日 (木)

- ロータリーソング 「君が代」「奉仕の理想」
- 出席報告 会員43名中23名出席
- 出席率 57.50% 出席計算人数40名
- スピーカー 地区補助金委員会 副委員長
江川 泰彦さん

会長挨拶

松尾 雄二郎



皆さんこんにちは
先週はゴルフ会と総会がありました。任期2年を過ぎて、もう1年、古川さん達が役員をしてくれることになりました。今期は遠征もありそうで楽しみです。
それから会長賞を復活しました。例会で優勝者に一言いただいたりして、同好会を盛り

上げていただければと思います。

また、土曜日からマラソン同好会メンバーの今村幹事と森田さんと仙台に行ってきました。台風、コロナ、コース変更と3年ほど中止で3回目の開催となった、復興チャリティーマラソンですので、今後も可能な限り参加したいと思います。

前夜祭と打ち上げでたくさんおいしいものを食べてきました。走ったメンバーは全員完走できました。私もコロナで伸び悩んでいましたが、初めて4時間切りができたので、体はえらいですが満足です。

今後の予定ですが、16日は今月の夜間例会で Make a Wish チャリティオークションがございます。持ち寄っていただく品には何が入っていて、落札希望価格を付箋やメモをつけていただくとスムーズで、大切な品がより役立つと思いますので、ご協力お願いいたします。

また、19日の日曜日に星ヶ丘ボウルで子供たちを集めてチャリティーポーリングをされるとの案内をいただいていますので、お時間のある方は参加をお願いいたします。

30日は、田中さんのご紹介で、エベレストに登頂された方のお話が聞けます。なかなかない経験ですので、ぜひロータリーに興味を持っていない方、ある方をお誘いいただければと思います。会費くらいは増強で予算取りをしたいと考えますので、ぜひご協力ください。

その日は入会式も予定しています。

今晚は2回目の食いしん坊の会ですし史さんです。

来月はしゃぶしゃぶを予定してまして、まだ席があるようです。1月のお勧めも募集しています。簡単ですが、本日も1日よろしくお願いします。

ニコBOX

- 地区補助金委員会 副委員長 江川泰彦さん
補助金委員会の江川です、本日お世話になります。宜しく願い致します。
- 今月はロータリー財団月間です。地区補助金委員会副委員長の江川泰彦さんにお越しいただきました。会員一同 歓迎いたします。
松尾、黒田、武山、岩田、山崎彰子 長谷川、小野、田中、加藤、安江、杉江、堀江亮介、堀江俊通、後藤、河原、高橋(敬称略)
- 誕生日のお祝いをありがとうございます。
今村さん、恵利さん、西川さん
- 秋のニコニコ健康感謝 Day 3名

本日合計 49,000 円

11月の祝福

誕生日		結婚記念日	
1日	恵利有司さん	3日	河原さん
2日	後藤さんご夫人		成田さん
19日	岩田さんご夫人	4日	藤田さん
29日	西川 博さん	15日	清水さん
30日	今村昌根さん	18日	堀江さん
		21日	矢野さん
		25日	高橋さん



ロータリー財団月間卓話

地区補助金委員会 副委員長 江川泰彦
「財団をクラブ活性化に」

2760 地区ロータリー財団 補助金委員会 江川泰彦と申します。本日は、ロータリー財団月間にあたり、皆さまからの大切なご寄付がどのように使用されているかを説明し、

ロータリー財団へのご理解を深めていただけるよう卓話をさせていただきます。



1917年6月18日、ヨーロッパで戦火が荒れ狂うころ、米国ジョージア州アトランタで開かれた第8回ロータリー年次大会で、「世界でよいことをする」ための基金の設置を、アーチ・クランプ会長が提案しました。その1ヶ月後に寄せられた、26ドル50セントの

寄付で始まった基金は、1928年に正式に「ロータリー財団」と命名され、管理委員会が創設されました。

国際ロータリーは、皆さまの会費で運営していますが、ロータリー財団は、皆さまからの寄付のみで運営・活動をしています。

皆様、今年度の国際ロータリーの人頭分担金(=会費)の金額はご存じですか？今年度は75ドル、会員120万人で9,000万ドルになります。では、ロータリー財団は？繰り返しになりますが、ロータリー財団の財源は世界中で集められた皆様からのご寄付です。今年度、ロータリー財団管理委員会はこれまでで最高額となる5億ドルを寄付目標に設定しました。内訳は、補助金の資金源となる年次基金は1億5,000万ドル、ポリオ根絶には5,000万ドル、それにビル&メリнда・ゲイツ財団からの1億ドルの寄付が上乘せされます。そして恒久基金で1億4,000万ドル、その他の現金寄付等で6,000万ドル、の合計5億ドルです。昨年2022-23年度は貴クラブより年次基金おひとり157ドル ポリオプラスおひとり36ドル、をご寄付いただきました。ご支援ありがとうございます。

本年度の地区のロータリー財団寄付目標は、年次基金おひとり150ドル以上、ポリオプラスおひとり30ドル以上、恒久基金は、クラブでベネファクター1名、または、1,000ドル以上です。

昨年度、恒久基金に寄付されたクラブは35クラブありました。大口寄付者は2名、ポール・ハリス・ソサエティ

(PHS)は、昨年度23名が入会され、現在50名のメンバーがいらっしゃいます。「大口寄付者」とは、一括10,000ドル以上を寄付される方です。寄付分類は問いません。「ポール・ハリス・ソサエティ」とは、毎年1,000ドル以上を、年次基金またはポリオプラス基金に寄付することを約束された方を認証するためのプログラムです。

シェアシステムの説明をしたいと思います。要は、財団に集まった寄付をロータリアンの奉仕活動を行う時には、みんなでシェアをしましょう、ということです。これによって大きな事業も可能になります。

皆様からのご寄付は、3年間投資され、その収益が財団の運営に活用されます。均すとだいたい6%くらいの利益を上げています。こうした資金の50%が地区財団活動資金

(DDF)、残りの50%が国際財団活動資金(WF)となります。これは、この金額がそのまま戻ってくる訳ではなく、使う権利がある、ということです。そのため、地区補助金については、地区は1ロータリー年度につき1回申請を提出することができ、残金はすべてグローバル補助金に充当

します。毎年、当地区では年次基金寄付を約80万ドル集めています。昨年度は70万ドルでした。したがって、再来年2025-26年度は、使えるお金が減ることになります。

例として、昨年2022-23年度の地区財団活動資金(DDF)の使われ方をご説明します。

3年前2019-20年度の年次基金寄付の50%の391,588.10ドル、恒久基金の使用可能収益の50%の44,318.03ドル、合計435,906.13ドルが財源となりました。ここから、パキスタンの洪水支援へ10,000ドル ポリオプラスへ55,000ドルを寄贈しています。

地区補助金は56クラブより申請があり、これが134,761ドル、グローバル補助金による奉仕事業に5件、あわせて110,300ドル、グローバル補助金奨学生に40,000ドルを拠出しています。

残金が86,000ドルほどありますが、後ほど説明するグローバル補助金奨学生の2人分と理解いただければよいと思います。また、本来なら、VIT事業も行うところですが、2022-23年度もコロナ感染拡大の影響により実施することができませんでした。

シェアシステムの資金モデルが2021年7月に変更となり、来年2024-25年度から、年次基金寄付の5%が、運営費として国際財団活動資金(WF)と地区財団活動資金(DDF)から均等に差し引かれることになりました。これによって、これまで「25%ルール」と言っていましたが、地区補助金申請可能額は「23.75%」となります。

毎年、このように卓話訪問をさせていただいていますが、地区の財団委員が訪問して卓話させていただくのは、今年が最後です。来年度から、各クラブの財団委員長が、財団セミナー等で聞かれた話をクラブの皆様をしっかりお伝えする機会として、11月の財団月間を利用していただきたいと考えました。11月の財団月間卓話のために、2024年4月7日 地区研修・協議会、2024年8月2日 財団セミナーに加え、10月頃に名古屋地区・西三河地区・豊橋地区それぞれ1回ずつ相談会を設けたいと考えています。

ここからは、一番多く使われている「ポリオプラス」についてお話しします。

ポリオはエジプト時代の石板にも片足の細った患者らしき姿が描かれており、ヨーロッパでは古くから知られる感染症でした。

日本では有史以来の文献に記述がなく、明治時代以降に海外から入ってきた疾患であるとの説が有力でしたが、日本の縄文時代の入江遺跡の人骨からポリオの痕跡がみられたとの報告もあり、その間の経過に関しては実はよくわかっていません。

しかし、1940年代頃から全国各地で流行がみられ、1960年には北海道を中心に5,000名以上の患者が発生する大流行となりました。そのため、1961年に生ポリオワクチンを緊急輸入し、一斉に投与することによって流行は急速に終息しました。

ポリオウイルスは、人の口の中に入って、咽頭や腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウイルスは、再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。

神経系を侵し、場合によっては死に至る病ですが、現在に至るまで明確な治療法はありませんが、ワクチン接種によ

りポリオの発症が予防できることはわかっています。そのためワクチン接種が推奨されています。ロータリーがポリオの根絶を目標に定めた時には、ポリオの根絶などは夢物語だと思われていました。しかし、1985年から「ポリオプラス」プログラムを開始し、1988年にはWHOと共に「世界ポリオ根絶推進活動」を立ち上げ、ポリオのない世界のために、先頭に立って活動してきました。こうした活動が実を結び、1988年に35万人いた感染者は激減したわけです。

地区補助金についてお話したいと思います。地区補助金は、地元や海外の地域社会のニーズに取り組むための、比較的規模の小さい、短期的な活動を支援する補助金です。来年2024-25年度は、2021-22年度の年次基金寄付額の23.75%が補助金申請可能額になります。クラブの拠出金は0でも構いません。

特定の人、団体、地域社会に対する継続的または過度の支援、募金活動、ロータリー行事に関連する経費、受益者や協力団体への使途無指定の現金寄付等々、補助金を受領する活動では、これらを行うことはできません。この事に注意して計画を立ててください。詳細は『地区補助金 授与と受諾の条件』をよくお読みください。

2023年12月、次年度地区補助金事業の予定に関するアンケートを実施します。より大きな事業をやりたいと思うクラブには、使わないクラブの補助金枠を使えるようにしたいと思います。ただし、これは『共同事業』に限ります。委員会からはアンケート結果による情報はお伝えしますが、マッチングについては関与いたしません。お早めに2024-25年度の事業構想を練ってください。

続きまして**グローバル補助金**についてです。2ヶ国以上のクラブ・地区が、7つの重点分野に該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらす、大規模な国際的活動を支援する補助金です。申請要件は、ロータリー財団の使命に沿っていること、ロータリー会員が積極的に参加することに加えて、2カ国以上のクラブ・地区が参加すること、最低予算3万ドル以上であること、持続可能性を担保すること、測定可能であることです。

このグローバル補助金の活動では、①受益社会の人びとがサポートしていること、②ロータリー会員が主導すること、③測定可能な結果、数値化して残すこと、④補助金を使い尽くされた後も地域社会が自力で持続していけるものであることが条件になります。

クラブからの現金拠出の8倍までのDDFを申請することが可能です。上限は4万ドルです。クラブ理事会を通したうえで申請をしていただくために、このようなシステムにしました。My ROTARYでの申請手続きを始める前に、必ず地区ロータリー財団委員会にDDF申請書を提出し、財団委員長との面談を行ってください。

グローバル補助金事業のひとつ、**職業研修チーム(VTT)**についてです。VTTとは、Vocational Training Teamの略で、専門家チームを海外に派遣して研修を行う、または、専門家チームを国内に招聘して研修を行う、職業奉仕事業であり国際奉仕事業です。

今年度、3年ぶりにVTTを行います。フィリピンの南、ミンダナオ島という大きな島にあります、ダバオという町が中

心の3860地区と連携して、同地区より要請のあった心臓外科手術の技術指導を行う予定で、現在ロータリー財団の承認を待っているところです。ここがダバオ、フィリピンの最南端ですね。12月10日に3860地区の医療チームが来日し、研修を行います。

グローバル補助金奨学生についてです。グローバル補助金の海外の大学院で、ロータリーの重点分野のいずれかに該当する分野を専攻する方を対象とした、返済不要の奨学金を給付するプログラムです。以前はどのような分野でも奨学金を申請することができましたが、未来の夢計画導入によって、ロータリーの重点分野に限定されました。実務経験は不要です。皆様ご存じの日本人初の国連難民高等弁務官をつとめられた、緒方貞子さんや、軍縮担当国連事務次長の中満泉さんも財団奨学生でした。

平和フェロシップについてです。平和を愛する人達のためのネットワークを構築するためのプログラムです。ロータリー平和センターは7つあり、8つの大学に設置されています。このうち、5つのセンターでは、平和と開発に関する修士号取得プログラムを提供しています。

ロータリー平和フェローの申請には、3年以上の実務経験が必要です。平和フェロー、グローバル補助金奨学生とも、優秀な候補者を探す上で重要な役割を担うのがロータリアンです。

先ほども説明した**財団の資金**についてです。

2021-22年度的一般管理等含めたロータリー財団の支出は3億3,000万ドルでした。そのうちの89%、2億9,400万ドルがプログラム補助金と運営費に使用されました。他の団体では60%から70%であることと比べると、いかに大きく事業費に回しているかがわかります。

ロータリー財団は、2023年、米国の慈善団体の格付けを行う独立機関であるチャリティーナビゲーターから、15年連続で最高の四つ星評価を受けました。この評価は、ロータリー財団が透明性を重視し、責任ある管理を行っていることを認められたことによるものです。

2023-24年度の地区の財団寄付目標は、年次基金寄付お一人あたり150ドル以上、ポリオプラス寄付お一人あたり30ドル以上をお願いしております。ポリオプラス寄付では5000万ドル集まれば、ゲイツ財団から1億ドル提供されます。恒久基金とは、ロータリー財団の根幹を支える資金です。草花を育てるときに、『毎日与える水』が年次基金寄付としたら、いざという時に活用するために『貯めておく水』が恒久基金寄付。恒久基金は投資され、運用益のみ使用します。



第5回理事会 議事録

日時 11月9日 12:00~
場所 名古屋クレストンホテル例会場
出席者 松尾、今村、川原、加藤、水野、恵利
田中、小野、岩田(敬称略)

議題:

1. 希望の風奨学金への支援について
2. 30周年記念事業について 2025年3月20日開催
3. IMについて 2025年2月20日開催
4. 岡山丸の内RC 交流例会について
5. 11月16日 夜間例会チャリティオークション
6. 12月23日 クリスマス例会の内容について
7. 1月25日 職業奉仕職場見学概要
8. 中部経済新聞 新春の挨拶掲載について
9. RYLA セミナー参加者の募集について

クラブ戦略委員会 報告

日時 10月28日(木) 13:40~
場所 名古屋クレストンホテル ディライト
出席者 磯部、加藤、藤田、水野、田中、
オブザーバー 松尾会長

趣旨

1. 次年度役員検討・構想
2. 委員会の統合・運営
3. IM 開催構想
4. 30周年記念事業構想

次年度会長エレクト推薦委員会

日時 11月9日(木) 13:40~
場所 名古屋クレストンホテル ディライト
出席者 武山、長谷川、今村、山崎彰子
議題

1. 2024-25 年度会長エレクトを推薦
ご本人の承諾を得て、年次総会にて報告致します。

今後の例会予定

11月16日(木) 例会変更「Make a Wish 支援チャリティ」

11月23日(木) 休会

11月30日(木) 外部卓話 エベレスト登頂者 生田洋介様

ハイライトよねやま vol.282 より転載

「学友の力を母国に還元=教育プログラム=開催」

8月26日、マレーシア米山学友会の主催で、第1回「MRYA(マレーシア米山学友会)教育プログラム」がオンラインで開催されました。このプログラムは、同学友会会員の個々の知識や技術を社会に還元していくこと、受講者に社会貢献への意識を高めてもらうことを目的としています。

今回は「日本語をボランティアで教える人材育成」をテーマに、日本の総合商社で18年勤務し、10年以上にわたってマレーシアの学生に日本語をボランティアで教えている経験豊富なチン ワエン サンさん(1994-96/東京国分寺R

C)が講師を担当。参加した20人の受講者に向けて、「どのように学生の興味を惹くか」「どのように学習意欲を引き出すか」「どのようにリーディングやスピーキングの技術を習得させるか」など、日本語を教えるために必要な基礎スキルについて約1時間半の講義を行いました。マレーシアの中学・高校には日本語クラブが多数存在しており、同学友会では、「日本語学習や日本文化への興味関心が強い学生たちの力になりたい」という思いで精力的に活動を行っています。

「寄付金速報」



8月までの寄付金は、前年同期と比べて36.5%増(普通寄付金:2.6%減、特別寄付金:113.6%増)、約1億670万円の増加となりました。当会は内閣府より「公益財団法人」の認定を受けており、当会への寄付は所得税、法人税の税制優遇が

受けられ、相続税も非課税となります。今年度からは、特別寄付金が新たに50万円に達した方へピンバッジ(銀色)を贈呈します。10月の米山月間も引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

「モンゴルの地で感じた米山奨学事業の成果」

先月5日に開催された米山学友による世界大会「再会 in 関東」では、多くの学友とロータリー会員が再会を喜びあう場面が見られました。今回は、モンゴルの地で学友と「再会」を果たした会員の話を紹介します。

7月1日、国際ロータリー第2680地区淡路三原RCの国際奉仕委員長を務める奥井正造会員が、モンゴル米山学友会のパグワ・ボヤンジャルガルさん(2016-19/淡路三原RC)を訪ねるため、5人の会員と共にモンゴルを訪れました。奥井会員とボヤンさんとの出会いは、同クラブが2016年に世話クラブとなったこと。当時、日本へ来た理由を尋ねると、「博士号を取得して保健師になりたい。モンゴル人は朝昼晩ずっとお肉を食べるため、中高年になると肥満になり、長生きできない。医療の力で生活習慣病を改善し、モンゴル人の平均寿命を5歳延ばしたい」とのこと。この志の高さに感銘を受けた奥井会員やクラブ会員たちは、その時からずっと彼女を熱心に応援してきました。

そして今回、奥井会員はモンゴルでボヤンさんと再会。時間を忘れるほど話が弾んだそうです。招待されたボヤンさんの家では、お母さんがとても嬉しそうに出迎えてくれ、家族勢ぞろいで机いっぱい料理が並び、盛大な会となったそうです。

帰国した奥井会員は、「私は、日本で自らの力を高め、自国の発展の力なりたいと志す奨学生を応援することが米山奨学事業の醍醐味だと考えています。その成果をモンゴルで見せてもらえました。学友会に入会し、日本との絆を保とうとしている学友たちの健気さが心に響きました。

そして、私たちロータリアンが思っている以上に、学友のご家族は米山奨学事業に感謝しているんだな、と感じました」と、ボヤンさんたちと過ごした時間を振り返りました。